

西区在住50年、作家生活30年、全集刊行と節目の年を迎えた小檜山博氏。谷口区長は大学時代、小檜山氏は20代に東京で生活をした共通点を持つお二人の対談の一部をご紹介します。

自然による心の潤いを
地域の力に変えて
(谷口区長)

谷口 私は札幌生まれ、札幌育ちで、大学四年間だけ東京へ行っておりましたけれども、自然の豊かさや人情味などを考えて就職は札幌で、と思い、今に至っております。

小檜山 先生が平和地区を選ばれたのは何かお考えが、あつてお住まいになられたのでしょうか。

小檜山 僕自身は滝上町の市街地からさらに十七キ山奥へ入った、山と川と空がきれいな所で育ちました。その後、札幌に住み、転勤で九年近く東京に住んでいましたが、東京で体を壊してしまつたのです。病院に行つてもどこが悪いというのではなく、へんとうを取る手術なんかをしたのですが、結局医者と言つたのは「水が合わない」。実際札幌に戻つてきて二カ月もしないで治つてしまつたのです。いかに自分が空気のきれいな所で純粹培養されていたか、また人間は自然によって生かされているかを身をもって体験したのです。

とにかく山のある所に住みたいと探して、今の所を見つけた。手稲や琴似が全部見えるだけでなく、石狩湾の波まで肉眼で見える景色に、やつと自分の自然を見つけたと思ひました。

谷口 私も着任時に山あり、

川ありで自然環境が大変素晴らしいと思ひました。そして地域の方も自然を大切に、後世まで残そうと、琴似発寒川の一斉清掃など区と地域の皆さんと協力した取り組みもあることも印象深いことでした。

小檜山 僕も西野緑道を散歩している、とにかく木が豊富であると思ひます。今年も全国で一番住んでみたい所に札幌が挙がつた理由は、もちろん人柄もあるでしょうが、自然だと思ひます。

谷口 春先ですと桜もありますし、今年からは地域の方が中心になつてアジサイを植える活動を始めました。地域の皆さんが緑を大切に、緑を楽しんでもらおうと取り組まれています。緑による心の潤いといひますか、心が癒やされることによつて、地域の方の人間関係も自然環境とマッチした形で進んでいくのだからと思ひます。

ですから地域の方とお会いしてもごみ問題、地域の安全の問題などに一緒に取り組んでいこうという積極的な方が多いですし、団結力も強いように思ひます。

小檜山 東京に行つて気付いたのは、地下鉄や山手線で通勤していると、普通席を譲ろうという気持ち、混雑で足を踏まれると踏み返してやろうというふうになる。だんだん自分が壊れていくのを感じました。同時に休みの日に三鷹台の公園に行つて、自然

によつて自分が癒やされていくことを非常に敏感に感じました。動物と同じように、人間をつくるのは人間と自然であるということになれば、川や星や緑、山がない所にいるということは非常に不自然だということが分かりました。

自然に加えて、札幌人のずるさのない人柄の良さと、四季がはつきりしているところが

が「札幌二度泣き」という言葉に表れているように、冬の寒さを自分の味方に引つ張り込む気概さえあればこんないい所はないと思ひます。

谷口 そうですね。私も東京でざつとばらんに話していただのですが、こちらのおおらかさを不思議に思つている友達もいました。それがいい形で皆さんの連帯感につながっているように感じます。



▲小檜山氏から西区の子どもたちへのメッセージ。小檜山氏の作品『イタチ捕り』(第79回直木賞候補作)より。作品の最後で、主人公の少年が吹雪の中、走りながら悲しみに耐えたシーンからです。悲しいときでも上を向いて頑張ろうというエールが込められています。



▲谷口区長
平成18年4月西区長に就任。

この対談の一部を1月8日(祝)午前11時から「西区情報プラザ」(FM76.2MHz三角山放送局)で放送します。